第 122 回 ASC セミナー

日本アフリカ学会 関東支部 共催

事前登録こちら

「1930 年代～ 60 年代の トゥリ・ブロック（ボツワナ）における密猟と ビルトンの違法「輸出」：国境を越えた犯罪事業」



2026 年 12 月 15 日(火)

場所 :【Hybrid】
Onsite: 102 教室 / Online: ZoomMeeting
（東京外国語大学 研究講義棟 1F/ 府中キャンパス）

言語：英語・参加費：無料
時間：17 時 40 分～ 19 時 10 分（日本時間）

【講演者】マイツェオ・ボラーネ博士

東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター招へい客員教授
ボツワナ大学歴史学部准教授・サン研究センター長

【要旨文】

国境研究が歴史家の関心を集めている。本報告では、生態学、地理学、環境学、天然資源管理学の知見を参考に、国境を越えた違法な経済活動の事例を検証する。

1930 年代から 60 年代にかけて、南アフリカ連邦とベチュアナランド保護領（ボツワナ）の国境地帯にローカルな産業が発展した。トランスヴァール州の農場主が、トゥリ・ブロック（ボツワナ）で狩猟動物を密猟してビルトンを製造し、南アフリカで販売したのである。保護領に住むボツワナ人の関与もあった。密猟者たちは、モトルツェ川とリンポポ川の合流地点の北側で、徒歩や馬、時には車両を使って両国を行き来した。トゥリ・ブロックでは密猟が深刻な問題となり、トゥリの白人農場主は自主的な取り締まりを試みたが、彼らのなかにもこの犯罪に関与していたものがいた。1950 年代から 60 年代になると、密猟の規模とトゥリの農場主からの苦情が増加し、ボツワナの植民地政府からの注目も高まった。一部の狩猟対象種が絶滅の危機に瀕していたため、政府は密猟を削減・抑制するための対策を講じようとした。ボツワナの公文書資料や文献調査では、トランスヴァールの農場主たちの経済的ニーズに加え、1949 年に制定されたトランスヴァール条例により狩猟が制限され、密猟に対して重い罰則が科されていたことが指摘されている。このため、摘発が不十分で罰則が軽いトゥリ・ブロックが魅力的な場所となっていた。

より深いレベルでみると、トゥリ・ブロックは、アフリカーナー（トランスヴァールのボーア人）、英国の帝国的野心、そして先住民のあいだで争われた辺境地域であった。注目すべきは、トゥリ・ブロックのボツワナ人とアフリカーナーとの国境を越えた関係性が、予想以上に協力的な場合もあったという点である。これは、両者の間での直接的な衝突の歴史が限られていたことと、双方がそれぞれの国家の権力構造において周縁に位置していたという事実を反映したものである。以上のように、本研究は、主に野生生物保護と観光で知られるボツワナのこの地域における、複雑に絡み合った歴史的・領土的な権力闘争を検証するものである。

キーワード：国境研究、密猟、違法な経済活動、トゥリ・ブロック（ボツワナ）、トランスヴァール（南アフリカ）

現代アフリカ地域研究センター
African Studies Center-TUFS

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1（研究講義棟 4 階 401E-2 号室）
3-11-1 Asahicho, Fuchu, Tokyo 183-8534 Japan
(Room 401E-2, Research and Lecture Bldg.)
Email: asc@tufs.ac.jp